

令和元年 11 月 2 日

高校 2 年生・3 年生
保護者 各位

日本大学第二高等学校
学校長 新野 好通

「大学入試英語成績提供システムの導入見送り」について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、報道機関等からの情報で既にご承知の方も多いと存じますが、標記の件について、11月1日に文部科学大臣及び大学入試センターから正式な発表がありました。

本校では、この大学入試英語成績提供システムについて、多方面から情報を得つつ、最終的には文科省・大学入試センター・各大学の判断に従って、生徒の不利益にならないよう細心の注意をはらって対応して参りました。同システムの運営団体である大学入試センターからは、同システムに必要な共通 ID 発行申込の期間が11月1日～14日（高校3年生は12月2日～10日）と定められていましたので、高校2年生には10月21日、3年生には10月30日に、進路指導係からそれぞれ生徒全員に説明を行い、「共通 ID 発行申込書」の本校への提出を指導しました。既に2年生は本校に提出完了、3年生は今後11月2日と27日を校内締切として提出予定でした。

しかしながら、11月1日の上記発表を受けて、大学入試センターに問い合わせたところ、「既に高校に提出されたものについては、センターに申込みをしないようにして下さい」との回答を得ました。

この間、生徒・保護者の皆さまに対しては、多々お手間をおかけしましたが、このような運びとなりましたので、既に提出されました「共通 ID 発行申込書」については、生徒に返却させて頂き、未提出の方は、提出不要とさせて頂きます。

なお、このシステム導入が延期になったといっても、英語4技能資格試験の重要性が全く無くなるものではなく、一般入試・推薦方式等を問わず各大学の入試で必要になる場合も多いため、今まで通りの英語の学習が重要であることに変わりはありません。本システム用の英語資格試験については、各実施団体のホームページ等でご確認頂くとともに、連絡・確認がとれ次第、本校からも生徒の皆さまには連絡して参ります。

制度変更の過渡期において、不安になり過ぎることなく、従前通り学力の向上に努めてくださいますよう、お願い致します。

以下、大学入試センターの11月1日付プレス発表資料、裏面に「文科大臣メッセージ（英語民間試験について）」（文部科学省 HP 11月1日）を添付します。ご確認ください。

以上

- 11月1日に文部科学大臣から、令和3年度大学入学者選抜から導入予定であった英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の導入を見送るとの発表がありました。
文部科学省ホームページ 「大臣メッセージ（英語民間試験について）」
http://www.mext.go.jp/a_menu/other/1422381.htm
- これを受け、大学入試センターでは、11月1日より予定していた「共通 ID 発行申込」を中止いたします。関係者の皆様におかれましては、ご迷惑をおかけすることとなりお詫びいたします。
- ご準備いただいていた方におかれましては、申込されないようお願いいたします。
すでに申込済みの場合の取扱いやその他詳細は改めて公表いたします。

受験生をはじめとした高校生、保護者の皆様へ

文部科学大臣の萩生田光一です。皆様に、令和2年度の大学入試における英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の導入を見送ることをお伝えします。

大学入試における英語民間試験に向けて、今日まで熱心に勉強に取り組んでいる高校生も多いと思います。今回の決定でそうした皆様との約束を果たせなくなってしまったことを、大変申し訳なく思います。

英語民間試験を予定通り実施するかどうかに関しては、高校生をはじめ多くの皆様から、賛成・反対、様々な意見をいただきました。

私としては、目標の大学に向けて英語試験の勉強を重ねている高校生の姿を思い浮かべながら、当初の予定通りのスケジュールで試験を実施するために、連日取り組んできました。

しかし、大変残念ですが、英語教育充実のために導入を予定してきた英語民間試験を、経済的な状況や居住している地域にかかわらず、等しく安心して受けられるようにするためには、更なる時間が必要だと判断するに至りました。

大学入試における新たな英語試験については、新学習指導要領が適用される令和6年度に実施する試験から導入することとし、今後一年を目途に検討し、結論を出すこととします。

皆様が安心して、受験に臨むことができる仕組みを構築していくことをお約束します。

今回、文部科学省としてシステムの導入見送りを決めましたが、高校生にとって、読む・聞く・話す・書くといった英語4技能をバランスよく身に付け、伸ばすことが大切なことには変わりありません。

グローバル化が進展する中で、英語によるコミュニケーション能力を身に付けることは大変重要なことです。皆様には、これからも日々の授業を大切にするとともに、それぞれの目標に向かって努力を積み重ねて頂きたいと思います。

令和元年11月1日

文部科学大臣 萩生田光一